

特集

ヨハネスブルグ体験記

時差7時間の国で

代表派遣《前半》8/23~9/1

南隆昭事務局員

8月26日、韓国のNGO『Korean Council for Local Agenda21』主催の『New partnership Initiative for Local Agenda 21』という会議に参加しました。

イギリス、オーストラリア、韓国、南アフリカからの代表と、日本からは大阪市の方と私が参加し、各国のローカルアジェンダの状況と課題などについて議論しました。宮城県の実地環境政策の状況と MELON の活動紹介を行ないました。私の場合、発表するのが精一杯でしっかりした議論ができるほどの知識も英語力もなかったので、かなり冷や汗ものでした。

韓国では、京都議定書による温室効果ガス削減義務は今のところ無く、省エネルギーや再生可能エネルギーに関する動きはそれほど活発ではないが、今後は重要になってくるので是非情報交換していきたいという意見もいただきました。



ウブントゥ村 JAPAN パビリオン前にて



仙台から参加したグループのブース

個人的に一番印象に残ったのが、28日にエネルギーに関する plenary session と呼ばれる会議を傍聴できたことです。モデレーターのオランダ環境相ブロンク氏とマルチステークホルダーと呼ばれる各関係主体（エネルギー業界、NGO、途上国代表等）との議論、各国政府代表によるスタンス表明などがなされ、再生可能エネルギーに前向きな意見には会場から拍手が沸き起こっていました。国際会議の現場に立ち会えたのはとても貴重な体験でした。

今回ロビー活動的なことはほとんど出来ませんが、MELONのような地域NGOとしては地域での活動から実例を示していくような形の政策提言をしていくべきではないか、そのためにはもっと考えて行動していかなければと感じました。

代表派遣《後半》8/28~9/6

三浦隆弘評議員

「持続可能な開発に関する世界首脳会議」(環境開発サミット)が南アフリカのヨハネスブルグで8月26日から9月4日までの日程で開催され、私は後半日程の29日~4日に参加した。

健全な地球を将来世代に引き継ぎたい。そんな誰もの願いが実現するかどうかにかかわる重要な会議は成功するのだろうか、そんな思いでの参加だった。個人的にも、世界の農業、生物多様性、農民の現状についても非常に関心をもって参加した。

この10年間のグローバリゼーションの進展等による南北間格差の拡大は、先進国と発展途上国の利害関係に関する意識を相互に覚醒することとなり、

「環境(保全)」と「開発」の両立を困難なものにしてしまっている。一方、最新の環境モニタリングデータによると、地球環境の悪化に歯止めがかかっていないことを明示している。手を打たなければ世界の貧困や水不足は一層ひどくなる。地球温暖化や森林破壊、砂漠化などが進み、生物多様性が損なわれて地球環境も確実に悪化する。

サミットの主要成果である世界実施文書。WTO支配を押し留め、持続可能な生産・消費様式へ転換する足がかりはつかんだ。が、エネルギー転換、人権、市民社会の参画などでは課題も多い。このような状況を念頭に置いて、問題解決への取組みとして